
平成22年1月期
(2009年1月21日～2010年1月20日)
決算参考資料

平成22年3月4日
(株)サガミチェーン
東証・名証1部上場 コード:9900
設立:1970年3月 資本金:63億300万円

株式会社**サガミ**チェーン

目次

1. 連結対象企業の事業内容	_____	P2
2. 平成22年1月期業績の概況	_____	P2
3. 財政・キャッシュフローの概況	_____	P3
4. 店舗展開の状況	_____	P3
5. 平成22年1月期業績の背景	_____	P4
6. 平成23年1月期の業績予想	_____	P5
7. 開示資料について	_____	P5
8. サガミ中期経営計画について	_____	P6

1. 連結対象企業の事業内容

○連結子会社の対象範囲は5社であります。

[連結子会社]

名称	住所	資本金又は 出資金（千円）	事業の内容	議決権の所有 割合（％）
株式会社ディー・ディー・ エー	名古屋市守山区	200,000	飲食店の経営 FC店店舗への材料 提供及び経営指導	100.0
株式会社サガミサービス	名古屋市守山区	10,000	損害保険及び生命 保険の代理業務	100.0
株式会社エー・エス・サガ ミ	名古屋市守山区	70,000	飲食店の経営	71.4
株式会社ボンパナ	名古屋市守山区	300,000	ベーカリーの製造 販売	100.0
上海盛賀美餐飲有限公司	中国上海市	260,000	飲食店の経営	93.4 (16.5)

※議決権所有割合の（ ）書きは間接所有部分で内書であります。

2. 平成22年1月期業績の概況

○連結ベースの経営成績

○単独ベースの経営成績

単位 (百万円/円)	平成21年 1月期	平成22年 1月期	前年比 (%)	単位 (百万円/円)	平成21年 1月期	平成22年 1月期	前年比 (%)
売上高	25,582	22,228	△13.1	売上高	22,821	19,570	△14.2
営業利益	267	△453	—	営業利益	164	△404	—
経常利益	227	△426	—	経常利益	210	△385	—
当期純利益	△549	△2,925	—	当期純利益	△501	△2,796	—
一株あたり 当期純利益	△22.5	△119.9	—	一株あたり 当期純利益	△20.5	△114.6	—

○平成22年1月期末の配当について

配当につきましては、平成21年3月4日発表の通り見送ることといたしました。

○株主優遇策について

平成22年1月20日現在に当社株式を一千株以上保有の株主様に対し、1万5千円相当（通期換算 3万円）の株主優待食事券を進呈いたします。

3. 財政・キャッシュフローの概況

○連結財政状態

単位 (百万円/%/円)	平成21年 1月期	平成22年 1月期
総資産	19,800	17,049
純資産	14,274	11,519
自己資本比率	72.0	67.5
一株あたり純資産	584.5	471.7

○連結キャッシュフローの状況

単位 (百万円)	平成21年 1月期	平成22年 1月期
営業活動によるキャッシュフロー	246	△251
投資活動によるキャッシュフロー	△593	△543
財務活動によるキャッシュフロー	99	△351
現金及び現金同等物 期末残高	3,773	2,633

○設備投資について

連結設備投資は 668百万円（H21.1実績 709百万円）となりました。

○減価償却費について

減価償却費は 551百万円（H21.1実績 599百万円）となりました。

4. 店舗展開の状況

	平成21年1月期	平成22年1月期			平成23年1月期 計画		
	店舗数	出店	閉店	店舗数	出店	閉店	店舗数
サガミ	168	—	32	136	—	5	131
どんどん庵	82	3	4	81	2	4	79
あいそ家	4	7	—	11	5	—	16
その他	12	3	5	10	10	—	20
合計	266	13	41	238	17	9	246

○平成22年1月期の店舗展開の状況について

業態変更等のリモデルを含む新規出店は「あいそ家 7店」「どんどん庵 3店」「その他業態 3店」の合計 13店（うち純新店数 5店）となりました。一方、閉店につきましては「サガミ 32店」「どんどん庵 4店」「その他業態 5店」の合計 41店（うち純閉店数 33店）となりました。これにより期末の店舗数は 238店となりました。

○平成23年1月期の店舗展開の計画について

業態変更等のリモデルを含む新規出店は「あいそ家 5店」「どんどん庵 2店」「その他業態 10店」の合計 17店（うち純新店数 12店）を計画しております。一方、閉店につきましては「サガミ 5店」「どんどん庵 4店」の合計9店（うち純閉店数 4店）を計画しております。これにより平成23年1月期末の店舗数は 246店を計画しております。

なお、新規出店等に係る設備投資につきましては、635百万円を計画しております。

5. 平成22年1月期業績の背景

- (1) 平成22年1月期より売上高・広告宣伝費の計上方法を一部変更しております。
- ① 前期までは、受取家賃を営業外収益、これにかかる支払家賃等を営業外費用に計上しておりました。転貸物件が増加していることを理由に今期より、受取家賃を売上高、これにかかる支払家賃等を売上原価に計上することといたしました。
 - ② 前期までは、値引券回収に伴う回収額を売上高、同額を広告宣伝費にて計上しておりました。値引券の配布内容が変更となるため今期より、売上高・広告宣伝費共に計上しないことといたしました。
 - ③ 平成22年1月期業績における前年同期比への影響額は、売上高 501百万円減収、売上原価 65百万円増額、販管費 596百万円減額となりました。
- (2) 平成22年1月期決算は減収・減益となりました。売上高は二期連続の減収、営業利益、経常利益、当期純利益は三期連続の減益となりました。なお、当期純損失の計上も三期連続であります。
- (3) 平成22年1月期の取り巻く環境は、一部の経済指標を通じて景気後退局面は底入れしたとの認識が広まりつつあります。しかしながら、国内消費におきましては、家計所得の減額や雇用不安等により、改善の兆しは見られず低迷が続くこととなりました。外食産業におきましても、生活防衛意識を背景に、外食機会や外食動機は冷え込んでおり、食の内部化・外食離れが顕在化しております。
- (4) 売上高は、平成21年8月24日公表の業績予想（以下 修正予想）において主力業態「サガミ」の既存店売上高を前年同期比 7.2%減と想定しておりました。これに対し、実績は 9.1%減となり、修正予想の前提条件を 1.9%ポイント下回ることとなりました。また、セルフサービス麺類店の「どんどん庵」におきましても、既存店が低調に推移いたしました。これにより、売上高は修正予想に対し 721百万円減収の 22,228百万円となりました。
- なお、前年同期比では3,353百万円の減収であります。
- (5) 売上原価率におきましては、販売促進による値引販売等が増加したため、前年同期比 1.6%ポイント上昇の 31.3%となりました。
- (6) 販管費につきましては、修正予想 16,110百万円に対し、実績は 395百万円減額の 15,714百万円となりました。経費削減は計画を上回る進捗状況であるものの、既存店売上高が前提条件を下回ったことから、修正予想に対し営業損失は 103百万円減益の 453百万円、経常損失で 106百万円減益の 426百万円となりました。
- なお、前年同期比では営業利益 720百万円、経常利益 654百万円のそれぞれ減益であります。
- (7) 特別損失は修正予想 1,292百万円の見込みに対し、減損損失の発生に加え、店舗閉鎖に伴う損失や投資有価証券評価損等を計上したことにより、2,166百万円となりました。
- なお、前年の特別損失計上額は 650百万円であります。
- (8) 当期純損失におきましては、特別損失が増加したことに加え、既存店売上高が前提条件を下回ったことにより、修正予想に対し 1,055百万円減益の 2,925百万円となりました。
- なお、前年同期比では 2,375百万円の減益であります。

6. 平成23年1月期の業績予想

○連結ベースの業績予想

単位 (百万円/円)	第二四半 期累計	通期	前年比 (%)
売上高	9,950	20,380	△8.3
営業利益	△120	0	—
経常利益	△90	30	—
当期純利益	△740	△710	—
一株あたり 当期純利益	△30.3	△29.1	—

○単独ベースの業績予想

単位 (百万円/円)	第二四半 期累計	通期	前年比 (%)
売上高	8,390	17,300	△11.6
営業利益	△90	50	—
経常利益	△70	60	—
当期純利益	△530	△450	—
一株あたり 当期純利益	△21.7	△18.4	—

○連結ベースの業績予想について

- (1) 平成23年1月期の取り巻く環境は、外需に牽引される形で年度後半より緩やかな景気回復局面を迎えると言われております。一方で、勤労収入や可処分所得の減額等により国内消費に改善の兆しは見られず、引き続き厳しい環境が続くものと予想されます。
- (2) 通期の既存店売上高につきましては、直近三カ月の客数推移に基づき試算しており、前年同期比「サガミ4.8%減」「どんどん庵 5.0%減」を見込んでおります。
- (3) 売上原価率におきましては、前年同期比0.4%ポイント低下の30.9%を見込み、販管費では前年同期比 1,634百万円減額の14,080百万円を想定しております。
- (4) 特別損失におきましては、当該年度に発生する可能性がある減損損失を見積もり 650百万円を見込んでおります。
- (5) 配当につきましては見送る方針であります。

※業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

7. 開示書類について

本日の決算発表に併せて以下の内容につきましても開示しております。

- ① 当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）の継続について
- ② サガミ中期経営計画に関するお知らせ
- ③ 投資単位の引下げに関する考え方及び方針等について
- ④ 定款の一部変更について

8. サガミ中期経営計画について

(1) 中期経営計画策定の背景

当社を取り巻く環境は、設備投資の抑制や国内消費の落ち込み等により、景気は低迷し厳しい状況が続いております。これに加え、雇用環境の悪化や可処分所得の減額等により個人消費に改善の兆しは見られず、かつ長期化の様相を呈しております。外食産業におきましても、業界全体の店舗数や既存店の伸率が低調に推移している事に加え、お客様の節約志向を背景に、食の内部化・外食離れが顕在化。外食動機・利用機会の冷え込みは、業界全体に多大な影響をもたらしております。

かかる環境下、当社におきましては中長期にわたる企業活動の継続と発展を実現し、企業価値については株主共同の利益の確保・向上を図るためには、早期の業績改善と再成長に向けた施策が必要であると判断しております。そこで、当社は平成25年1月期を最終年度とする「サガミ中期経営計画」を策定いたしました。

(2) 中期経営計画の主な施策について

中期経営計画における主な取り組みといたしましては、第一に「サガミ業態の再構築」を推進してまいります。これは、利用動機に合わせたメニューやお客様層の拡大と定着等による売上拡大策に加え、店内作業の効率化、経費削減の徹底等により、生産性向上と効率化を図る内容であります。

第二に「業態ポートフォリオの見直し」として、サガミ既存店から「あいそ家」への業態転換を推進してまいります。さらに、次の成長を担う主力業態として「うどん」を主体とした大型セルフ店の開発等にも取り組んでまいります。そして、最後に「経営基盤の強化」として、施策に対する実行力の強化や、市場の変化に即応できる体制を整備いたします。

これらの施策を確実に遂行することで、中期経営計画における数値目標は実現できるものと判断しております。なお、中期経営計画の詳細については本日発表しました「サガミ中期経営計画に関するお知らせ」に記載の通りであります。

(3) 数値目標

単位 百万円	平成21年 1月期 ('09.1)	平成22年 1月期 ('10.1)	平成23年 1月期計画 ('11.1)	平成24年 1月期計画 ('12.1)	平成25年 1月期計画 ('13.1)
売上高	25,582	22,228	20,380	20,570	20,880
経常利益	227	△426	30	210	260
当期純利益	△549	△2,925	△710	0	100

※本計画は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

ディスクロージャーポリシー (Disclosure Policy)

(1) 基本方針

サガミグループは、「食文化を通じて地域社会に奉仕する」「企業を通じてお客様に奉仕する」という経営理念のもと、すべてのステークホルダーに対し、透明性、公平性、継続性を基本に証券取引法及び上場取引所の定める法令・規則を遵守し、タイムリーな情報提供に努めます。

(2) 情報開示の方法

東京証券取引所が定める適時開示規則に該当する情報の開示は、同取引所へ事前説明後、同取引所の提供する適時開示電子情報システム(TDnet: Timely Disclosure Network)に登録し提供しています。TDnet 公開後、すみやかに報道機関に同一情報を提供するとともに、当社ホームページへも掲載いたします。ただしシステムの都合上、これら情報の当社ホームページへの掲載が遅れることもあります。

また、適時開示規則に該当しないその他の情報につきましても、適時開示の趣旨を踏まえて適切な方法により正確かつ公平に開示する方針です。

(3) 業績予想および将来の見通しについて

サガミグループの計画・将来の見通し・戦略などのうち、過去または現在の事実に関する以外は、将来の業績に関する計画や見通しであり、これらは現時点で入手可能な情報による判断に基づいております。

したがって、将来の業績等につきましては、様々なリスクや不確定要素の変動および経済情勢の変化などにより異なる場合があります。

(4) 沈黙期間について

サガミグループは決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算発表日の一ヶ月間前の一定期間を「沈黙期間」としております。この期間は、決算に関する質問への回答やコメント、IR活動を控えることとしております。ただし、この沈黙期間中に業績予想を大きく変動する見込みが発生した場合には、開示規則に従い適宜公表いたします。

なお、沈黙期間であっても、すでに公表されている情報に関する範囲のご質問等につきましては対応いたします。

(5) ディスクロージャーポリシーの遵守

サガミグループは、「企業の社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)」の観点からもグループの役職員全員に上記のディスクロージャーポリシーを周知徹底し遵守します。